2026年11月５日

各　位

会社名　ヒラキ株式会社
代表者名　代表取締役　梅木　孝雄
（コード番号:3059、東証スタンダード）
問合せ先　取締役現業支援本部長
髙下　幸弘
（TEL 078－967－4601）

特別損失（減損損失）の計上、第２四半期（中間期）業績予想と実績との差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2027年３月期第２四半期（中間期）において、特別損失（減損損失）を計上いたしました。また、2026年５月15日に公表いたしました2027年３月期（2026年４月１日～2027年３月31日）の第２四半期（中間期）の連結業績予想と実績とに差異が生じましたのでお知らせいたしますとともに、同期間の実績の反映および最近の業績の動向を踏まえ、通期業績予想を修正しましたのでお知らせいたします。

記

１．特別損失（減損損失）の計上

当社は、当第２四半期において、通販物流センターの大規模改修工事１億49百万円を実施しましたが、通信販売事業の収益性の低下により、当初想定していた収益を見込めなくなったことから、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当該改修工事を実施した生野事業所建物において帳簿価額を回収可能価額まで減額した結果、１億38百万円の特別損失（減損損失）を計上することとなりました。

２．中間期連結業績予想数値と実績値との差異について

(1) 2027年３月期中間連結会計期間（2026年４月１日～2026年９月30日）

（単位:百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	１株当たり中間純利益
前回発表予想（Ａ）	6,200	90	80	50	10円27銭
実績（Ｂ）	5,866	△97	△85	△231	△47円56銭
増減額（Ｂ－Ａ）	△333	△187	△165	△281	―
増減率（%）	△5.4	―	―	―	―
(ご参考)前期中間期実績（2026年3月期中間期）	6,123	△50	△46	△61	△12円57銭

(2) 差異の理由

生活必需品の価格上昇に伴う消費者の節約志向が根強く続く中、当社グループでは新商品の開

発や情報発信の強化に取り組み、第２四半期に入り売上高に回復の兆しが見られたものの、通信販売事業におけるカタログの効果的な配布・アプローチが十分に浸透しなかったこと等による減収および店舗販売事業における天候不順に伴う夏物商品の販売伸び悩み等により、連結売上高は前回発表予想を下回りました。

利益面におきましては、広告宣伝費等の経費効率化に努めたものの、減収に伴う売上総利益の減少を補うには至らず、営業損失および経常損失を計上することとなり、いずれも前回発表予想を下回る結果となりました。加えて、上記１の特別損失を計上したことにより、親会社株主に帰属する中間純損益につきましても予想を大幅に下回り、中間純損失を計上する結果となりました。

３．通期連結業績予想数値の修正について

(1) 2027 年３月期通期連結業績予想（2026 年４月１日～2027 年３月 31 日）

（単位:百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	12,500	150	140	100	20 円 54 銭
今回修正予想（B）	12,300	10	1	△160	△32 円 87 銭
増減額（B－A）	△200	△140	△139	△260	―
増減率（%）	△1.6	△93.3	△99.3	―	―
(ご参考)前期実績（2026 年3月期）	11,895	△320	△313	△426	△87 円 66 銭

(2) 修正の理由

通期連結業績予想につきましては、当中間連結会計期間において売上高が計画を下回り、営業損失を計上したことや、上記１の特別損失を計上した実績を反映いたしました。

下期におきましては、８月以降に回復基調が見られる売上トレンドをさらに加速させるべく、オリジナル商品を軸に、通信販売事業における顧客属性に応じたカタログ制作や離脱顧客へのアプローチ強化、データ分析に基づく売場再構築等を推進いたします。また、店舗販売事業や卸販売事業における営業強化および全社的なコスト管理の徹底により、下期での収益改善と通期営業黒字の確保を目指してまいります。

しかしながら、上期の業績未達および特別損失の計上による影響を補いきれない見込みとなったことから、通期の売上高、営業利益および経常利益の予想をそれぞれ下方修正するとともに、親会社株主に帰属する当期純損益につきましても当期純損失の予想へと修正いたします。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上